



明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

# KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 147

2022

2.4

コミコミスクスク

## 「令和3年度の学びの改革フォーラムながの」 ～令和の日本型学校教育実践セミナー～（前編）

1月28日（金）の「学びの改革フォーラムながの～令和の日本型学校教育実践セミナー～」（独立行政法人教職員支援機構・長野県教育委員会共催）が開催されました。

コロナの第6波の影響で、急遽オンライン開催となりましたが、長野県内だけでなく、全国からもたくさんの方が参加されていました。

「学びの改革」がテーマだけに登壇者の顔ぶれを見ても

工藤勇一先生（横浜創英中学・高等学校長）

岩瀬直樹先生（軽井沢風越学園校長）

荒瀬克己先生（教職員支援機構理事長元京都市立堀川高等学校長）

と学校づくり、教育改革に取り組まれている先生方で、今後の教育の方向性を感じとることができるのではと参加させていただきました。



3人の先生方からは、生涯にわたって成長していくために学び方を身に付けていくことの大切さが共通して語られました。そのためにはまず学校の中で、そして保護者・地域も一緒に学びの問い直しをすることが必要なんだと感じました。

「子どもの学びを問うてみる。わたしたち自身の学びを問うてみる。」「自分たちは個に応じた指導をしていると思っているが、それが子どもにとって個別にあった学びになっているか。」といった問いかけが荒瀬先生からありました。「指導」から「学び」への意識を変えていくことが必要、しかし、そのことが壁になっていると感じられている方は多いのではと思います。そのことを岩瀬先生は「前提を問い直すむずかしさ。」として次のようにお話されました。

- 13000時間の「被教育体験」のもとで、学校はかくあるものと身体化されてしまっている？
- 無意識の「信念」や「価値観」で自動的に行動してしまう。
- 体験したことがない学び方を教えなければならない。＝実感知を伴わない

自分の教員生活を振り返ってみると「学校はかくあるもの」という無意識の「信念」と「価値観」で動いていた自分がぴったりとあてはまってしまいました。体にしみついている無意識の「信念」と「価値観」から抜け出すためにも、「学びの問い直し」の対話が必要なのだろうと感じました。そのことが「体験したことがない学び方」を創っていくことにつながっていくんだと岩瀬先生の話聞きながら感じました。

工藤先生からは「前提を問い直すむずかしさ。」に正対し、前提を問い直しながら学校づくりを進めるうえで必要なことは「当事者意識と対話」といわれています。

麴町中は中学受験に失敗するなど、自己肯定感が低い子どもたちが多く入学し、そうした子どもたちを落ち着かせるために厳しい校則で子どもたちを指導するという負のスパイラルの中で、問題行動も絶えない学校だったそうです。着任後、「当事者意識と対話」を柱として学校の前提を一つ一つ問い直しながら、子どもたちの自己肯定感が育つ学校へと変えていきました。そうした工藤先生のプレゼンを聞きながら、前提を見直すキーワードとして私が記録したものを工藤勇一語録としてまとめてみました。

#### 工藤勇一語録1

- ・手をかければかけるほど、生徒は自律できなくなる
- ・自分がうまくいかないことを、誰かのせいにするようになる
- ・主体性を失い、自分も他人も嫌いになる、不幸な気持ちになる

#### 工藤勇一語録2

与える続ける教育→主体性を失う →当事者意識のなさ  
→幸福度の低さ →自己肯定感の低さ

#### 工藤勇一語録3

宿題は自律を失わせる象徴的なもの

たくさんの時間だけが奪われ学力は何も変わっていない

自律できない生徒はわかるところだけをやる

自律した生徒はできないところだけやる

#### 工藤勇一語録4

これまでは教師の立場から見てきた → これからは学習者主体で

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1. 何を教えて (カリキュラム) | 1. 何を学んで (カリキュラム) |
| 2. どう教えるか (教え方)   | 2. どう学ぶか (学びかた)   |
|                   | 学び方=将来の働くスタイル     |
|                   | 生き方・学び方を学ぶ        |

#### 工藤勇一語録5

学校組織で重要なことは常に 最上位の目標を合意すること

こうした言葉がどういった意味を持つのか対話がいろいろな学校で始まったらいいなと思っています。また、今回のフォーラムの先生方の話に共通していたのが自己肯定感の大切さです。そしてお話を聞く中で、子どもたちの自己肯定感を育てるといった意識ではなく、子どもだけでなく大人も含め自己肯定感が育っていく環境を創っていくという意識が必要なんだと感じました。そう言った意味でコミュニティ・スクールの役割は大きいなと改めて感じました。

工藤勇一先生の今回のフォーラムでの話とよく似た話を「茅ヶ崎青年会議所5月第一例会 学校教育シンポジウム 学校未来予想図～子供たちの教育はこう変わる～」の中でされています。よかったら20分程度の話なので視聴してみてください。<https://www.youtube.com/watch?v=IGzOyCL6oVE>



(26分～49分あたり)

次号ではこのフォーラムを岩瀬直樹先生（軽井沢風越学園校長）のお話に焦点をあてながら振り返りがきたらと考えています。  
(文責：北本)